

**【表紙】**

**【提出書類】** 内部統制報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の4第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成22年6月30日

**【会社名】** ジューテックホールディングス株式会社

**【英訳名】** JUTEC Holdings Corporation

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 足立 建一郎

**【最高財務責任者の役職氏名】**

**【本店の所在の場所】** 東京都港区芝五丁目26番24号

**【縦覧に供する場所】** 株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長足立建一郎は、当社及び連結子会社（以下「当社グループ」）の財務報告に係る内部統制を整備し、運用する責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して、財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであり、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

## 2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は平成22年3月31日を基準日とし、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して行いました。

評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行い、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しました。

当該業務プロセスの評価は、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することにより、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲については、当社グループについて、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮し、当社及び連結子会社4社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえて業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しました。

なお、連結子会社6社については、金額的及び質的重要性の観点から財務報告に与える影響の重要性が僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めておりません。

事業拠点の単位としては、連結子会社である㈱ジューテックは3つの営業本部、当社及びその他の連結子会社に関しては9社を各事業拠点として識別し、業務プロセスに係わる内部統制の評価範囲については、全社的な内部統制が有効であることを前提に当連結売上高の概ね2/3に達している㈱ジューテックの第1営業本部を重要な事業拠点といたしました。

選定した重要な事業拠点における企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として、売上高、売掛金、商品に至る業務プロセスを評価の対象としております。さらに、全ての事業拠点において重要な虚偽記載の発生の可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして個別に評価対象として追加しております。

## 3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、平成22年3月31日現在の、当社グループの財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

## 4 【付記事項】

該当事項はありません。

## 5 【特記事項】

特記事項はありません。